

23年度 心理行動科学実験演
習9 観察法
おわりに
2011. 7. 21

中谷

1. 観察法のメリット・デメリット;
①観察によって何がわかるか?
わからないか?

(自然)観察という研究方法

外的な行動(発話)のみを手がかりに、心理過程を分析する...内面的(思考・情緒)過程は?

- 発話の文脈を丁寧にみる(プロトコル)
- 長期的観察(学期・年間)
- 質問紙法等との組み合わせ
- 実験的観察(手続きを統制する) など

2. 観察法のメリット・デメリット
②“授業”という場面の特殊性

例えば、

1. 教室場面＝明示・暗黙の規範・価値の存在
2. 教師の役割、権威性
3. 即時性・一時性
4. 相互的影響の場...いかにして関連を示すか?

各グループの発表テーマと特色

- A 協同学習への児童の参加の特徴
...協同学習の“よさ”とは 協同的な理解?
全員の関与＝発話? 発話に表れない“学習”は
- B 協同による概念理解
...理解の“深さ”をどう測るか? プロセスはどうか?
- C 教師の発話が生徒の集中度に与える影響
生徒の集中度を高める教師の発話とは?
教科の違いも考慮しながら検討

各グループの発表とコメント

- D 一斉授業における効果的な教師の働きかけ
教師の発話、行動のコーディング、パターンの分析...可能であれば生徒の反応を分析できるとより強みができる可能性
- E 教師の働きかけと生徒の行動
教師－生徒の行動の連鎖を扱うという特徴
やりとりを一定の方法であぶりだす
ただし、より深い“相互性”という観点もあるのでは

課題

- ・テーマ設定の問題
(研究)合理的でユニークな問題意識を立てられたか?
(実践)教育実践に対して何らかの(直接・間接)示唆が可能か?
- ・分析方法の問題
テーマを描き出すために適切で妥当な方法を選択できたか?
- ・結論
データに即した形で目的にあった“答え”が得られたか? 当初の見通しに照らしてどうであったか?

最後に・・・

☆すべてのグループが、**観察データをうまく活用**し、想像していた以上に高いレベルの最終発表、研究内容に仕上がっていました！

☆皆さんの実力が推し量られ、今後も楽しみです。お疲れ様でした！